



わたしも大事 あなたも大事

今回の連続講座は、多様な専門分野で活動されている講師の方たちをお招きして、それぞれの視点から「わたしも大事 あなたも大事」というテーマについてお話ししていただきます。グリーフとひとくちに言っても、ひとりひとりの置かれている状況も、抱えているものも異なります。ひとつとして同じグリーフはありません。この講座が、その多様性に目を向ける機会になればと願っています。

第1回

2014年12月14日(日) 午後6時半～8時半

『わたしも大事 あなたも大事』にできるコミュニケーションとは?

巖 奈々さん(Kids Hurt Too Hawaii 理事)

会場:「世田谷産業プラザ」3F大会議室 世田谷区太子堂2-16-7(三軒茶屋駅徒歩2分)

第2回

2015年2月28日(土)午後2時～4時

「再会への序論—止まった時間を動かす」

熊谷 晋一郎さん(小児科医、東大先端科学技術研究センター特任講師)

会場:「せたがや がやがや館」4F多目的室 世田谷区池尻2-3-11(池尻大橋駅徒歩7分)

第3回

2015年4月4日(土)午後2時～4時

「テーマ相談中」

山下 梓さん(岩手レインボー・ネットワーク代表、ゲイジャパンニュース共同代表)

会場:「生活工房」5Fセミナールーム 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー(三軒茶屋駅徒歩3分)

第4回

2015年7月12日(日)午後2時～4時

「テーマ相談中」

張 賢徳さん(帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科教授)

会場:「生活工房」5Fセミナールーム 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー(三軒茶屋駅徒歩3分)

参加費 500円(介助者無料)

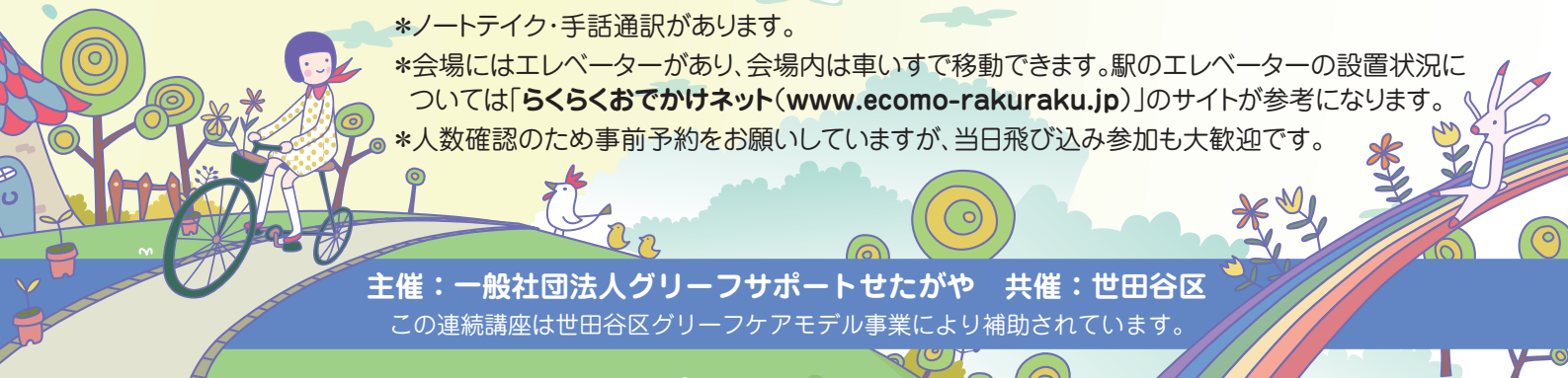
参加申し込み griefsetagaya@yahoo.co.jp まで下記情報をご連絡ください。

参加希望の日付／お名前／連絡先(メールアドレス)／所属(もしあれば)／必要なサポートの有無など

*ノートテイク・手話通訳があります。

*会場にはエレベーターがあり、会場内は車いすで移動できます。駅のエレベーターの設置状況については「らくらくおでかけネット(www.ecomo-rakuraku.jp)」のサイトが参考になります。

*人数確認のため事前予約をお願いしていますが、当日飛び込み参加も大歓迎です。





わたしも大事 あなたも大事

第1回 「『わたしも大事 あなたも大事』にできるコミュニケーションとは？」
2014年12月14日(日) 巖 奈々さん(Kids Hurt Too Hawaii 理事)

講師プロフィール: 不登校の子どもたちや居場所づくりに携わり、荻窪に「カウンセリングルームプリメイラ」を開設。働く女性、学生、カップルのカウンセリングを行う。企業・教育関係者を対象に感情・コミュニケーションをテーマにした研修も数多く行っている。著書に『感じない子どもころを扱えない大人』『〇のない大人 ×だらけの子ども』(集英社)、『いじめや仲間はずれから身をまもる』(ポプラ社)等多数。

第2回 「再会への序論—止まった時間を動かす」
2015年2月28日(土) 熊谷 晋一郎さん(小児科医、東大先端科学技術研究センター特任講師)

講師プロフィール: 新生児仮死の後遺症で脳性まひに、以後車いす生活となる。小中高と普通学校で統合教育を経験。大学在学中は全国障害学生支援センターのスタッフとして、他の障害者とともに高等教育支援活動をおこなう。東京大学医学部卒業後、病院勤務等を経て、現在は東京大学先端科学技術研究センター特任講師、UTCP(東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」)共同研究員。現在も週に2日、民間のクリニックに小児科医として勤務。『リハビリの夜』(医学書院)が、2010年新潮ドキュメント賞を受賞。その他の共著書に『発達障害当事者研究』(医学書院)、『つながりの作法 同じでもなく違うでもなく』(NHK出版)、『ひとりで苦しめないための「痛みの哲学」』(青土社)等。

第3回 テーマ 相談中
2015年4月4日(土) 山下 梓さん(岩手レインボー・ネットワーク代表、ゲイジャパンニュース共同代表)

講師プロフィール: 新潟大学法学部卒。大学在学中からLGBTの人権問題に取り組み、卒業後、人権市民会議に入り、国内人権機関をつくるための調査活動などを担当。2005年から、ゲイジャパンニュースにボランティアとして参加、2008年より共同代表。2010年より、岩手大学男女共同参画推進室特任研究員。2011年3月、岩手レインボー・ネットワークを立ち上げる。東日本大震災女性支援ネットワーク世話人、国際NGO ILGA(International Lesbian, Gay, Bisexual, Trans and Intersex Association)共同代表なども務めた。LGBTIの人権保障のために精力的に活動中。アジア5カ国による「LBT(レズビアン・バイセクシャル・トランスジェンダー)と暴力経験に関する共同調査」の日本チームコーディネーター。共訳書に「女性への暴力防止・法整備のための国連ハンドブック」がある。

第4回 テーマ 相談中
2015年7月12日(日) 張 賢徳さん(帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科教授)

講師プロフィール: 1965年大阪市生まれ。1991年東京大学医学部卒業、同年から帝京大学医学部にて研修医(麻酔科、精神科)、精神神経科学教室(風祭元主任教授)に入局。1997年ケンブリッジ大学精神医学博士号取得。1997年～1999年帝京大学市原病院精神科講師。1999年～2004年帝京大学溝口病院精神科科長・講師。2004年～2008年同科長・助教授。2008年～現在同科長・教授。学会活動: 日本自殺予防学会常務理事・事務局長、日本外来精神医療学会常任理事、日本うつ病学会評議員、日本臨床死生学会理事、多文化間精神医学会評議員、日本精神衛生会「心と社会」編集委員長など。主著: 「人はなぜ自殺するのか」(勉誠出版)、「うつ病新時代—その理解とトータルケアのために」(平凡社新書)、「自殺予防の基本戦略」(中山書店)。

グリーフサポートせたがや(グリスボせたがや)って?

米国オレゴン州に「ダギーセンター」という団体があります。ダギーセンターは、死別を体験した子どもたちが集い、遊びやおしゃべりを通じて、悲しみや辛い気持ちに向き合うことのできる家です。自分たちが暮らす地域でも同じような活動を始めたいと思い「グリーフサポートせたがや」を立ち上げました。世田谷区太子堂にある「サポコハウス」で子どもや大人を対象にグリーフサポートプログラムや個別相談を行っています。私たちは、死別喪失だけでなく、離別、暴力被害(安心感の喪失)、紛争や自然災害による被災(住まいや地域とのつながり、経済的な生活手段の喪失)、失業や就職難(希望の喪失)、貧困(人間らしい生活を営む権利の喪失)、いじめ、年齢・性・民族・宗教・障害・性指向や性自認などによる差別(自尊心やアイデンティティの喪失)、非婚や不妊などへの社会の不寛容(自己肯定感の喪失)など、直接・間接的な要因に起因するすべてをグリーフと捉えています。

グリーフサポートせたがやのサポートプログラム

世田谷区外の方にもお越しいただけます。スタッフが参加して、みなさんが安心して時間を過ごせるような場づくりをします。

いま感じていること、一人で抱えていることを安心してお話しできる場所です。

「いつ、だれを、どのように」亡くされたかに関係なくご参加いただけます。話したくなければ話す必要もありません。

子どものサポートプログラム

対象者: 死別体験した子どもと保護者

3歳～12歳: 第3土曜日 15:00～16:30

13歳～18歳: 第1水曜日 18:30～20:00
(中学生)

大人のサポートプログラム

対象者: 死別体験した大人(19歳以上)

第1日曜日 15:00～16:30

第3水曜日 19:30～21:00

※お子さま連れの方もご参加いただけます。

サポートプログラムへのお申込みやお問合せは、griefsetagaya@yahoo.co.jpまで。

個別相談も行っています。詳しくは、お問い合わせください。